

# 敦賀発電所の近況について

2025年7月8日

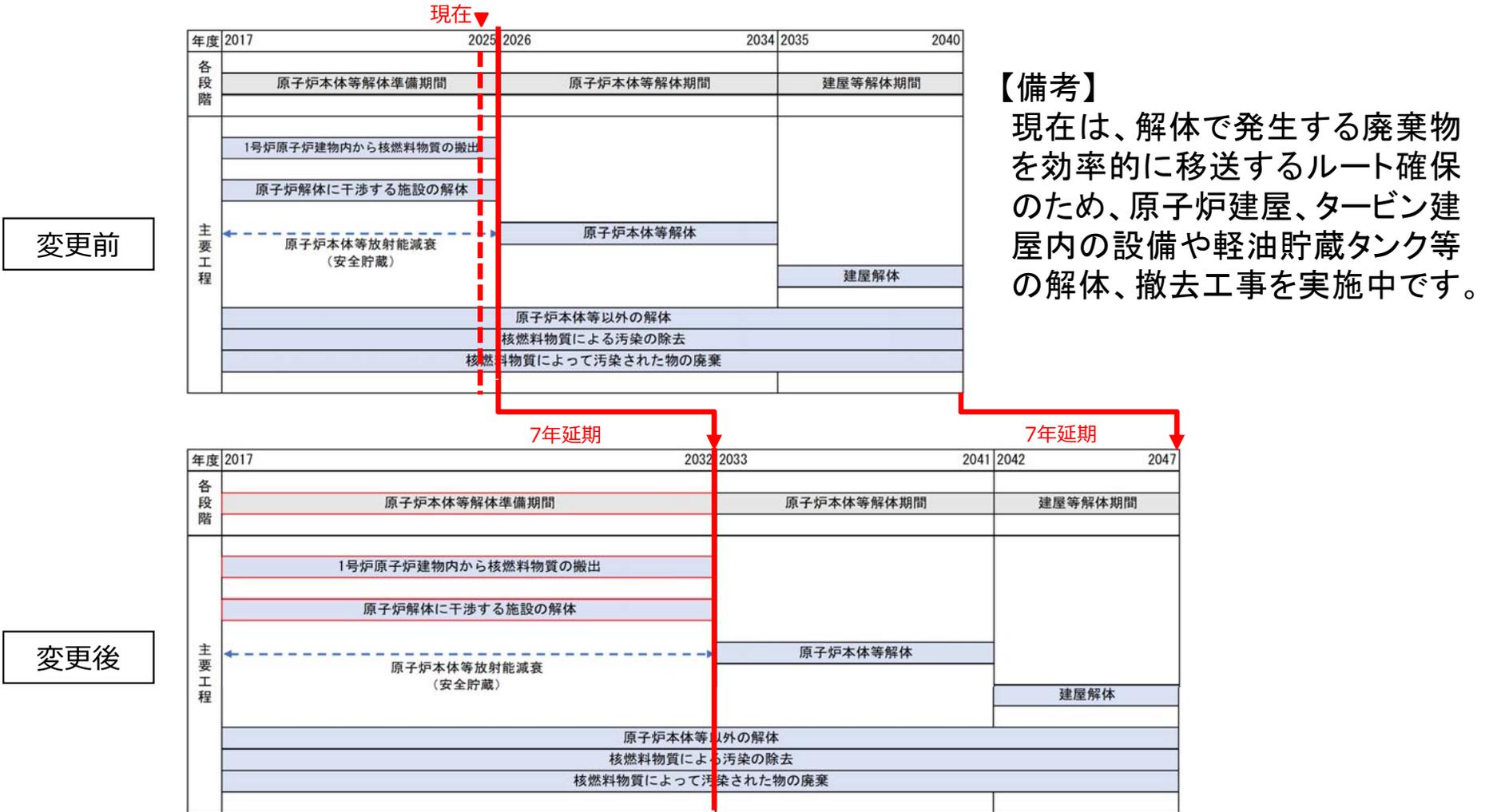
日本原子力発電株式会社

# 目 次

1.	敦賀発電所1号機の廃止措置計画(工程)の変更について	
	(1) 廃止措置工程の変更について .....	1頁
	(2) 原子炉本体等の解体廃棄物保管エリア .....	2頁
	(3) サプレッション・チェンバの解体に係る検討 .....	3頁
	(4) サプレッション・チェンバ解体に係る検討状況 .....	4頁
2.	コミュニケーション活動の取り組み状況(2025年度計画) .....	5頁
3.	RFSに関する使用済燃料搬入・搬出計画の検討状況 .....	6頁
<b>【参考資料】</b>		
1.	敦賀発電所2号機の追加調査計画に係る検討状況 .....	7頁
2.	敦賀発電所1号機の廃止措置工事の状況 .....	8頁
3.	コミュニケーション活動の取り組み結果(2024年度実績) .....	11頁

# (1) 廃止措置工程の変更について

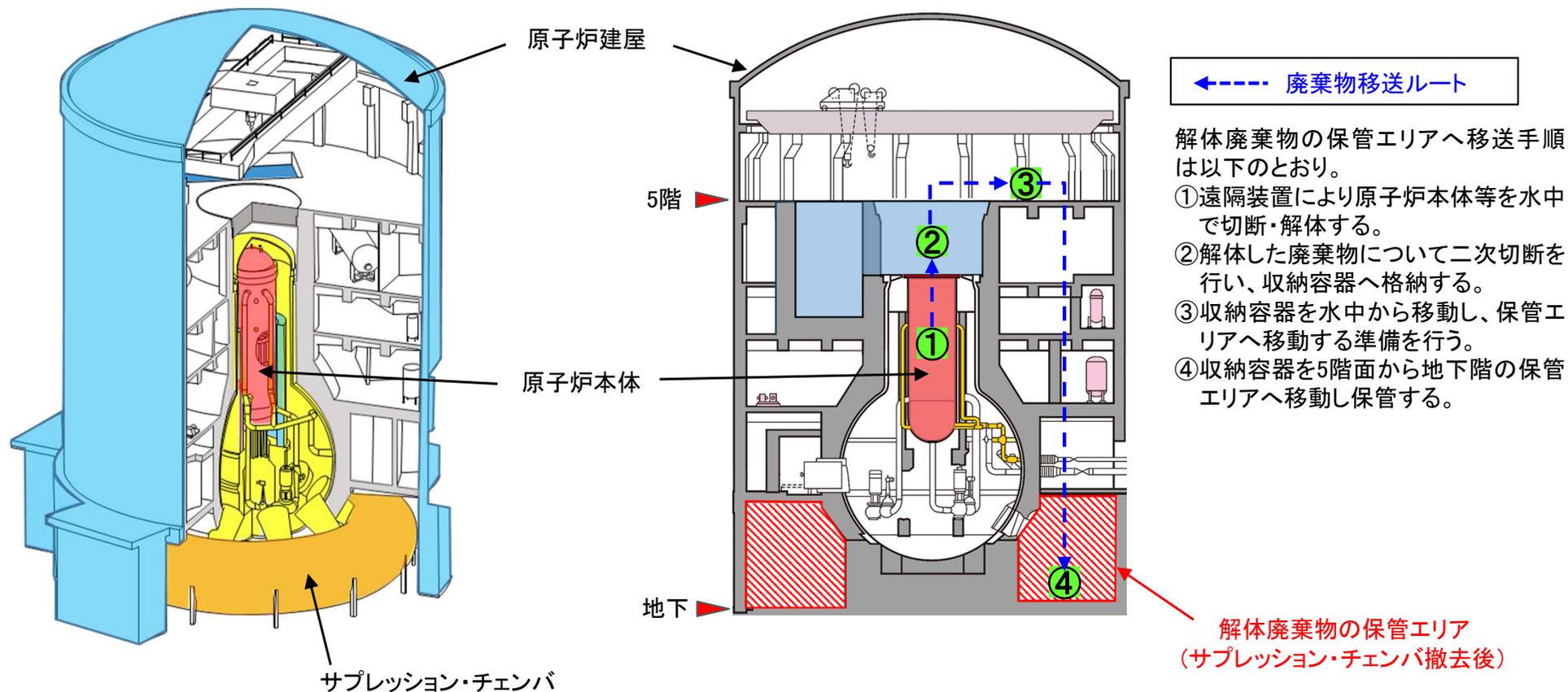
- 現在、原子炉本体等解体に干渉する施設等の解体を行っているところであり、2026年度から原子炉本体等の解体を予定していましたが、解体廃棄物を保管する予定のエリアにある大型機器の解体に今後7年程度を要することから、解体着手を2033年度に延期しました。
- これに伴い、廃止措置の完了時期を2040年度から2047年度に7年延期しました。



○廃止措置計画において、原子炉本体等の解体で発生する放射性物質の濃度が比較的高い解体廃棄物(L1廃棄物)については、原子炉建屋地下に設置されている大型機器(以下、「サプレッション・チェンバ※」という。)の解体・撤去を終えたエリアを活用して保管することとしています。

※サプレッション・チェンバは、原子炉運転中に事故が発生した際に、原子炉で発生した蒸気を凝縮して原子炉圧力の上昇を抑えるための設備であったことから、円環状(直径:約34m、断面直径:約8m、円環外周:約100m)の容器の中に防錆剤を含んだ水を約1,500トン貯めている状態です。

＜原子炉本体等解体時の移送ルート(検討例)＞



#### <経緯>

- サプレッション・チェンバの解体に向け、廃止措置計画申請当時からメーカーと検討を進め、解体の見通しを得ていましたが、当該メーカーが事情により受注体制の構築が困難となりました。
- その後、新たなメーカーを選定し、検討を進めた結果、解体に必要な装置の設計・製作や水処理、解体等に7年程度を要することを確認しました。

#### <サプレッション・チェンバの解体に係る検討>

- これまで廃止措置工程に影響が出ないよう、サプレッション・チェンバの解体が、原子炉本体等の解体と並行して行えないか、サプレッション・チェンバを解体したエリア以外に解体廃棄物を保管できないか検討してきました。

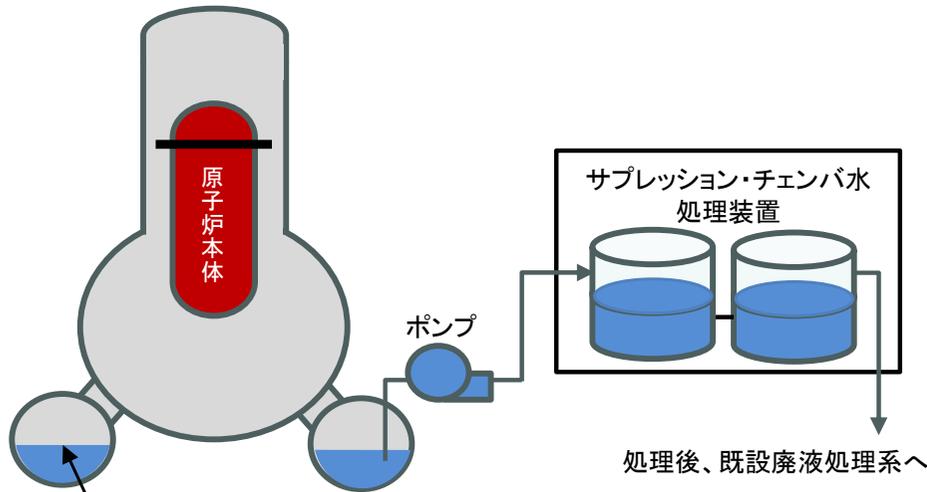
##### (検討の概要)

- ・ 原子炉建屋5階作業エリアでの輻輳回避
  - ・ 解体廃棄物(高線量、重量物)の安全な移送ルート、
  - ・ 解体廃棄物の保管に必要なスペースと安全に保管できるしゃへい能力 等
- その結果、原子炉本体等の解体開始までに、解体廃棄物の保管場所が必要であること、また他のエリアでは、解体廃棄物の保管に必要な移送ルートやスペース、放射線のしゃへい能力の十分な確保が難しいことから、安全を最優先に考え、当初の計画通りサプレッション・チェンバの解体完了後に原子炉本体等の解体に着手することとしました。

○サプレッション・チェンバの解体に当たっては、解体前に防錆剤を含んだ水を抜き出す必要があります。防錆剤を含んだ水には、有機防錆剤と無機防錆剤が混合しており、人体・環境に有害な六価クロムが含まれているという特有の課題があり、これら大量の水を安全・確実に無害化して処理する方法を新たなメーカーと検討してきました。

○概念設計段階での試験を通じて、安全に無害化処理が行えることを確認しており、今後は実機装置の設計や製作を行います。水処理後は、サプレッション・チェンバを機械切断等により解体する予定です。

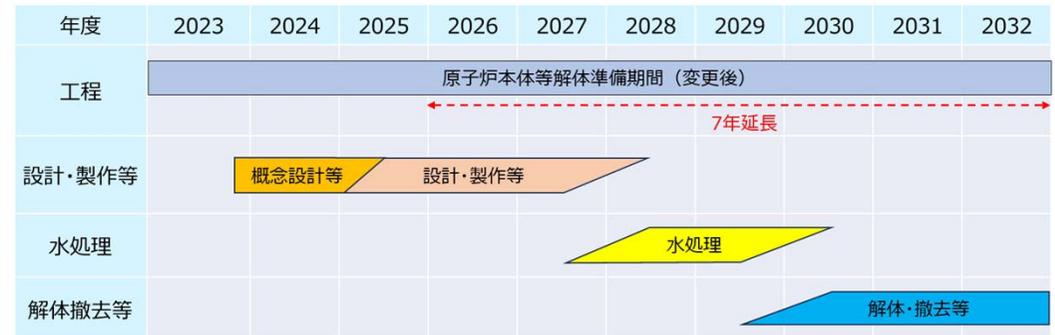
＜サプレッション・チェンバ水処理装置(概念図)＞



サプレッション・チェンバ  
保有水量  
約1,500トン※

※敦賀発電所1号機の運転開始当時(昭和45年)の防錆処理技術として、六価クロムを含有する無機防錆剤が一般的であったことからサプレッション・チェンバの防錆管理に採用しました。  
なお、六価クロムの人体・環境への影響を考慮し、現在は一般的に防錆管理において使用されていません。

＜サプレッション・チェンバ水処理及び解体工事工程(検討例)＞



「敦賀発電所1号機の廃止措置の状況」および「敦賀発電所2号機の再申請・稼働に向けた取組み状況」については、『活動方針1, 2』の取組みを通じて、地域の皆さまに丁寧な情報発信および分かりやすい説明に努めてまいります。(⇒『活動方針3』に展開)

活動方針	No	項目	活動内容/計画【目安】
1. 透明性の高い情報の発信 あらゆる機会を通じ、各種ステークホルダーに対して当社の取組み状況等に関する情報を発信する	1	当社 HP	① 月例プレス【毎月初旬】 ② 敦2審査に係る当社の対応【適宜】 ③ 敦1廃止措置工事状況 ④ 敦2再申請に向けた取組み【適宜】
	2	地域対象広報誌・ 広報紙の発行	⑤ 「げんでん いんふおめーしょん」福井県内 SH へ配布【毎月初旬】 ⑥ 「げんでん つるが」福井県内全域へ新聞折込【年2回】 ⑦ 「こんにちは げんでん」嶺北 UPZ 圏内市町区長へ配布【四半期初旬】
	3	広告掲載	福井県内ケーブルテレビでの放送【原子力豆知識5回、CM5回】
	4	SNS 活用による 情報発信	LINEげんでん公式アカウントの運用開始【2024年7月～継続】
2. 積極的な双方向コミュニケーション活動の実施 地域に根を張った事業者として、地域の皆様に対して情報(原子力防災への取組み含む)を適切に提供するとともに、積極的な対話により当社に対する信頼に繋げる	1	訪問対話活動	敦賀市区長、敦賀市全戸、県内近隣町区長の訪問対話活動にて当社事業運営の説明を行い、ご意見等を伺う【約28,000戸訪問】
	2	小規模説明会	地域の各種団体や企業等に社員が出向き、会社の状況やエネルギー・原子力等に関する説明等を行い、ご意見等を伺う「ふれあいトーク」を実施【40回程度】
	3	発電所・施設見学会	自治体、有識者、各種団体、地域住民等対象の見学会の実施【60回程度】
	4	有識者との懇談会	有識者やオピニオンリーダーとの懇談会を実施 ① アドバイザー懇談会【年5回】 ② ネクサス懇談会【年3回】
	5	発電所周辺自治体との コミュニケーション活動	① 滋賀県原子力安全対策連絡協議会【年1回】 ② 岐阜県との定期情報交換会【年2回】 ③ 愛知県との合同連絡会【年1回】
3. 意見等の的確な共有・活動への反映 各種ステークホルダーからの意見や情報を有益な情報としてとらえ、社内に共有し、活動に反映する	1	地域住民等との双方向 コミュニケーション活動 によって得た意見等の 集約・報告	<ふれあい活動における意見等> ① 訪問対話活動 ② ふれあいトーク ③ 嶺北100箇所訪問
			<懇談会活動における意見等> ① アドバイザー懇談会 ② ネクサス懇談会

【凡例】 ■ : 敦賀1号機の廃止措置の状況、敦賀2号機の再申請・稼働に向けた取組み状況に係る情報発信および双方向コミュニケーション活動

#### 【お知らせ】(7月7日公表)

リサイクル燃料貯蔵(株)(RFS)に関する使用済燃料搬入・搬出計画の  
検討状況について

#### 【概要】(当社計画の前提条件)

- 安全性向上対策工事が進捗する東海第二発電所の運転を想定し、安定的な運転の維持のために使用済燃料の搬出を優先的に進めると想定。
- さらに、“敦賀発電所2号機の今後の運転を想定した安定的な運転の維持のため”及び“敦賀発電所1号機の計画的な廃止措置のために、できるだけ速やかに使用済燃料を搬出する”と想定。

## 【プレスリリース】 (2025.3.31公表済)

敦賀発電所2号機の新規制基準への適合性確認審査の申請に向けた追加調査計画について

当社は、敦賀発電所2号機の新規制基準への適合性確認審査の申請に向け、至近で行う追加調査計画については、2025年3月末を目途に取りまとめを進めてまいりましたが、調査内容に万全を期すため、追加調査計画の検討を継続することとしました。追加調査計画がまとまり次第、地域の皆様、関係者の皆様へお知らせいたします。

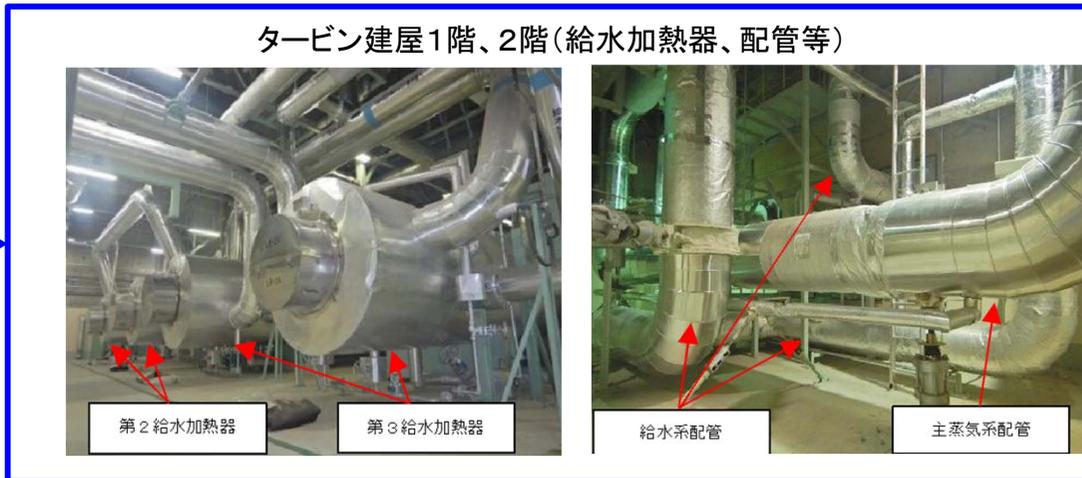
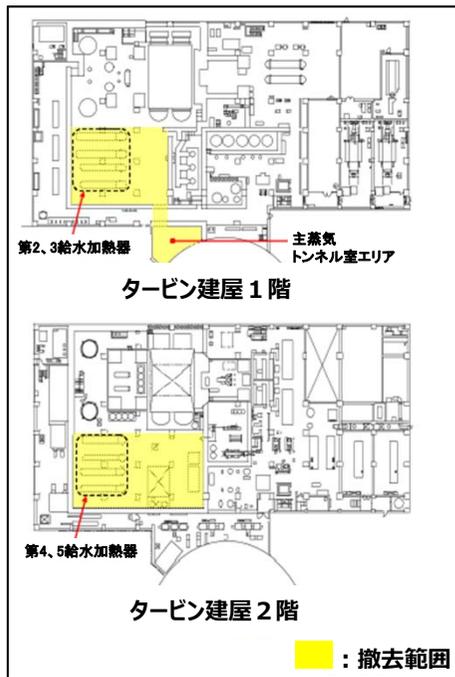
当社としましては、引き続き敦賀発電所2号機の再申請、稼働に向けて取り組んでまいります。

- 2022～2023年度は、取水口エリア解体工事、薬液注入ポンプ他解体工事、液体毒物注入系解体工事を実施
- 2024年10月1日より、建屋内廃棄物移送ルート等確保に伴う機器解体工事に着手
- 2025年4月21日より、軽油貯蔵タンク他解体工事に着手

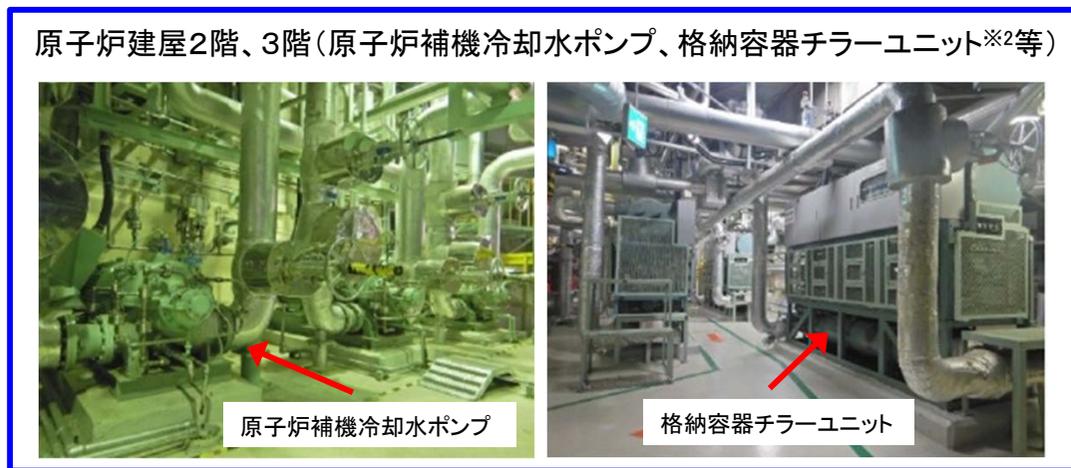
工事場所	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
屋内 (管理区域)		液体毒物 注入系 解体工事		現時点
放射能汚染レベル が低い設備の解体	薬液注入 ポンプ他 解体工事		建屋内廃棄物移送 ルート等確保に伴う 機器解体工事	
屋外等 (非管理区域)	取水口 エリア 解体工事		軽油貯蔵タンク他 解体工事	
	薬液注入 ポンプ他 解体工事			

# 【参考2】 (2) 至近の廃止措置工事の実施状況(その1)

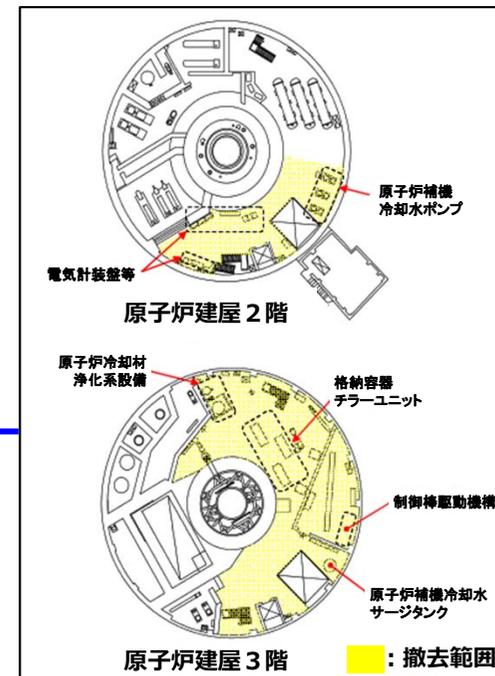
○ 2024年10月より、原子炉建屋2階、3階、タービン建屋1階、2階(放射線管理区域)にて、建屋内廃棄物移送ルート等確保※1に伴う機器解体工事を実施中。(2026年3月完了予定)



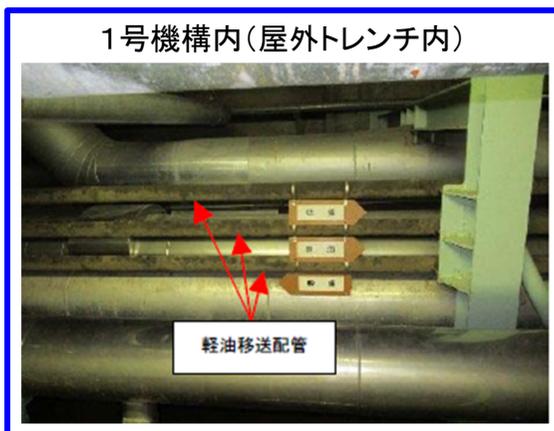
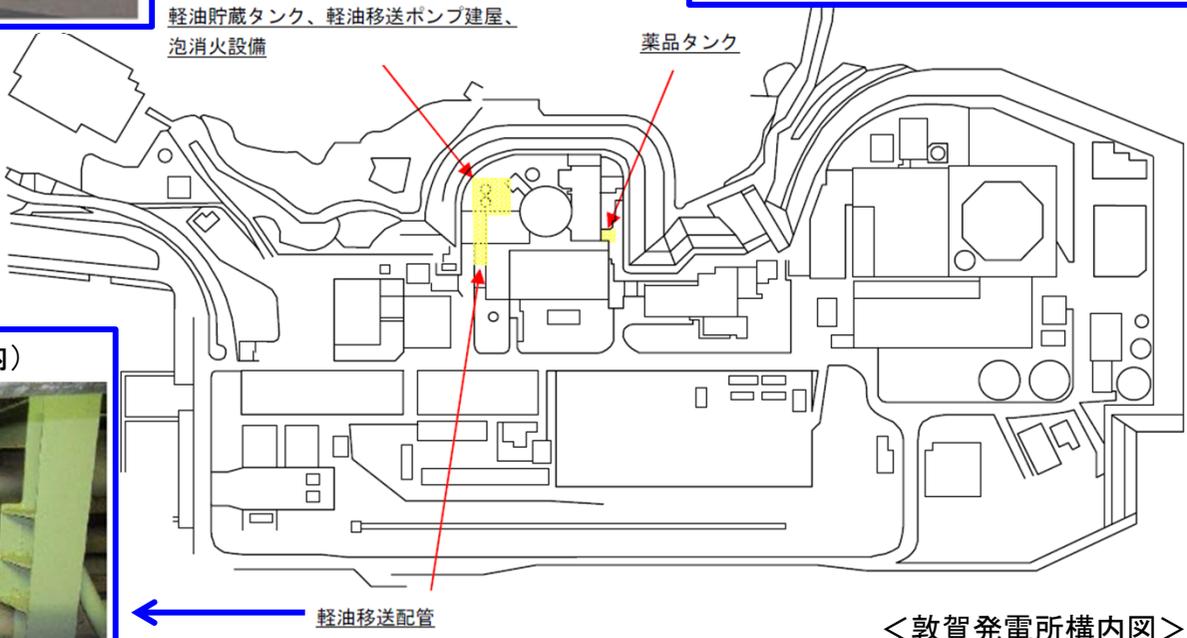
※1:タービン建屋・原子炉建屋間の廃棄物の移送ルート、仮置きエリアを確保するため、機器や配管を撤去する。



※2: 格納容器チラーユニットとは、原子炉格納容器内の空気を冷却する設備。



- 2025年4月より、屋外(軽油貯蔵タンク、軽油移送ポンプ建屋、薬品タンクエリア等)にて、軽油貯蔵タンク他解体工事を実施中。(2026年1月完了予定)



活動方針	No	項目	活動内容	実績
1. 地域との係わりを重視した理解促進 2023 年度アンケート結果を踏まえ、クリアランスの社会定着に向けた理解活動を継続して実施する	1	クリアランス理解活動	近隣自治体の地域まつり、次世代層教育支援活動に係るイベント等へクリアランス再利用品展示、放射線測定体験ブースの出展	10 回
	2		中部電力浜岡原子力発電所1・2号機の廃止措置の解体撤去工事で発生したクリアランス金属を再利用した製品を原子力館と敦賀総合研修センターにて展示	8/8 より展示開始
	3		敦賀市小学校教育研究会社会科部会に対する「教職員スキルアップ講座」のテーマとして、廃止措置とクリアランス制度について説明	10/21 実施、15 名参加
	4		次世代層教育支援活動の一環として、敦賀工業高校への科学探求講座の場でクリアランス制度について説明	11/22 実施、29 名参加
2. 透明性の高い情報の発信 あらゆる機会を通じ、各種ステークホルダーに対して当社の取組み状況等に関する情報を発信する	1	当社 HP	① 月例プレス【毎月】 ② 敦2審査に係る当社の対応	① 毎月初旬 ② 4 回
	2	地域対象広報誌・ 広報紙の発行	① 「げんでん いんふおめーしょん」福井県内 SH へ配布 ② 「げんでん つるが」福井県内全域へ新聞折込 ③ 「こんにちは げんでん」嶺北 UPZ 圏内市町区長へ配布	① 毎月初旬 ② 12 月 ③ 四半期初旬
	3	広告掲載	福井県内ケーブルテレビでの放送	原子力豆知識コーナー5回、 CMコーナー5 回
	4	SNS 活用による 情報発信	LINEげんでん公式アカウントの運用開始(2024 年 7 月～)	お友達登録 約 170 名
3. 積極的な双方向コミュニケーション活動の実施 地域に根を張った事業者として、地域の皆様に対して情報(原子力防災への取り組み含む)を適切に提供するとともに、積極的な対話により当社に対する信頼に繋げる	1	訪問対話活動	敦賀市区長、敦賀市全戸、県内近隣町区長の訪問対話活動にて当社事業運営の説明を行い、ご意見等を伺う	約 27,000 戸訪問
	2	小規模説明会	地域の各種団体や企業等に社員が出向き、会社の状況やエネルギー・原子力等に関する説明等を行い、ご意見等を伺う「ふれあいトーク」を実施	44 回、延べ約 480 名参加
	3	発電所・施設見学会	自治体、有識者、各種団体、地域住民等対象の見学会の実施	32 回
	4	有識者との懇談会	有識者やオピニオンリーダーとの懇談会を実施 ① アドバイザー懇談会 ② ネクサス懇談会	① 5 回 ② 3 回
	5	発電所周辺自治体とのコミュニケーション活動	① 滋賀県原子力安全対策連絡協議会 ② 岐阜県との定期情報交換会 ③ 愛知県との合同連絡会	① 8/6 ② 5/22、1/14 ③ 1/29
4. 意見等の的確な共有・活動への反映 各種ステークホルダーからの意見や情報を有益な情報としてとらえ、社内にも共有し、活動に反映する	1	地域住民等との双方向コミュニケーション活動によって得た意見等の集約・報告	<ふれあい活動> ① 訪問対話活動 ② ふれあいトーク ③ 嶺北 100 箇所訪問(1/27~2/21)	<意見等> ① 約 1,130 件 ② 約 190 件 ③ 約 10 件
			<懇談会活動> ① アドバイザー懇談会 ② ネクサス懇談会	<意見等> ① 約 110 件 ② 約 30 件